

研究区分	員特別研究推進（教育推進）
------	---------------

研 究 テーマ	インクルーシブな社会の実現にむけた障害者歯科に関する 歯科衛生士の実践的教育の効果検証				
研究組織	代 表 者	所属・職名	歯科衛生学科・講師	氏名	松原 ちあき
	研究協力者	所属・職名			
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	歯科衛生学科・講師	氏名	松原 ちあき

講演題目
インクルーシブな社会の実現にむけた障害者歯科に関する歯科衛生士の実践的教育の効果検証
研究の目的、成果及び今後の展望
目的：日本では、障害を有する者の割合は増加傾向にあり、障害者の医療・福祉の充実と共に、誰もが参加できるような社会づくりを目指したインクルーシブな社会の構築が推進されている。歯科医療においても、障害者基本法や障害者差別解消法の改正により、合理的配慮の提供義務から医療の提供では、障害者が可能な限り身近な場所で受けられるような医療提供体制の構築が求められるようになった。体制構築では、地域の一般歯科診療所での障害者への対応の推進が重要であり、障害をもつ患者の対応方法については、一般歯科診療所での歯科医師、歯科衛生士の人材確保や技術向上が不可欠となるため、歯科医療従事者への障害者歯科に関する教育の充足が必要であると考えられる。 歯科衛生士養成校での障害者歯科に関する教育では、歯科診療補助や保健指導の項目が多い傾向にあり、臨地実習施設先としては大学病院や障害者歯科センターなどの障害者歯科治療施設が多い傾向にある。一方で、一番身近な場所になりうる地域の一般歯科診療所での障害者対応や地域で暮らす障害者との関わりを学ぶといったインクルーシブな社会実現に着目した障害者歯科教育の実施やその教育的効果の検証はこれまでにない。そこで本研究では、地域の一般歯科診療所での歯科医療従事者の障害者に関わる知識・技術の向上を目的として、インクルーシブな社会の実現に着目した歯科衛生士教育の実践とその教育効果について分析検討した。 方法：本学科において実施されている障害児・者に関わる施設実習の既存記録を用い、教育効果の検証を行った。実習では、障害者歯科医療を専門とする施設に加え、障害福祉サービス事業所など、多機関における実習を実施している。本研究では、当該実習を履修した学生を対象に、実習前後の記録内容の変化を比較し、障害者歯科および障害者支援に関する知識の習得度や意識の変化について検討した。統計解析には McNemar 検定を用いた。（静岡県立大学研究倫理審査委員会承認：2025-36） 結果および今後の展望：分析対象者は 39 名であった。実習前に障害を有する者とのコミュニケーションに不安を感じていた学生のうち、実習後に不安が軽減した者は約 2 割であった。また、実習前に障害者支援に関わる業務に関心を示していなかった学生のうち、実習後に関心を持つようになった者は約 6 割であった。さらに、障害者歯科に関する知識の習得については、歯科保健指導に関する理解が向上した学生の増加が認められた。 これらの結果から、本実習は学生の意識および知識の向上に一定の教育的効果を有することが示唆された。今後は、これらの変化に影響を与えた背景要因の詳細な検討や、実習内容の異なる施設間での比較、さらに本教育が将来的なキャリア形成に与える影響についても検討を進めていく予定である。